

都中P通信

NO. 9

発行 平成 23 年 4 月 東京都立中学校PTA協議会 会長 水上 幸夫

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震災害）

義援金へのお願い

日頃より東京都立中学校PTA協議会の活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様には、新年度に向けてお忙しくお過ごしのことと存じます。

3月11日に東北地方を中心とした東北地方太平洋沖地震が起こり、大きな被害が出ていることは新聞・テレビのニュース報道でご存知のとおりです。その災害の大きさは私達の生活にも影響をもたらしています。

このたび、日本PTA全国協議会では、被害を受けた子どもを中心とする教育関係の支援のための募金を目的とした、災害義援金募金活動を全国に働きかけて行うこととなりました。都中Pでもそれを受けて、同じPTAの仲間として被災のPTAの皆様にも少しでも役立てていただければとの思いで、募金活動をすることにいたしました。

様々なところで募金活動が行われていますが、趣旨をご理解いただきご協力をお願い申し上げます。皆様よりお預かりする募金は、都中Pで取りまとめ、東日本大震災に対する義援金として日本PTA全国協議会へお送りし、活用を計りたいと思います。

— 記 —

口座： 00160-1-555450 (ゆうちょ銀行)
東京都立中学校PTA協議会

期間： 平成23年4月1日～4月30日 (第1期 締め切り)

問合わせ： 東京都立中学校PTA協議会・事務局
〒168-0074 杉並区上高井戸1-8-20 第1島田ビル405
TEL： 03-3329-5790
FAX： 03-3329-5791

払込手数料は不要です。以降も受け付けます。

「生きる力」

3月11日2時46分東北地方太平洋沖地震が発生。

3月18日、私は中学校の卒業式を終え、その足で用意できた支援物資を車に積み、甚大な被害がでている宮城を目指しました。

一般道でガソリンを給油しながら26時間かけて宮城県に入り、宮城県多賀城市総合体育館、宮城県東松島市野蒜(のびる)地区2か所に支援物資を届けました。その後、このときにご縁をいただいた宮城県東松島市野蒜地区と何度か連絡が取れ、4月9日に再度、野蒜地区を訪れました。二度目に訪れた時にはテント3張りにいっぱいのも物資があり、置ききれずに避難所の中にも物資が積んでありました。外国人ボランティアの姿も何度も見かけました。

一度目に訪れた時とは様子が異なり、プライバシーのないことのストレスや入れ替わり立ち代り訪れるボランティアの対応などで、避難所の皆さんがとても疲れているように見えました。石巻市を抜け、女川町にも足を延ばしました。少し高台では、家が残っているが故に避難所にも行けず、移動の足もないので避難所に配給を取りに行くことも出来ず、孤立しているという状況がありました。震災から1ヶ月、市からの支援物資の配給はたった一度だけとのことで、涙を流して感謝してくれた方もいました。

(写真は女川町と体育館の中の様子)



野蒜(のびる)海岸



多賀城市

「私達だけ貰う事は出来ません。少し先にも自宅避難者がいますので届けてもらえないでしょうか?」と仰います。被災者たちが協力し合い、励ましあって震災に負けず、この困難を乗り越えようとしている姿に涙がでました。この後、市の避難所となっている小学校を訪ねると、体育館のステージの上まで支援物資が積んであり、思わぬ不公平が起こっていました。

地震、津波、原発の話として語られがちですが、ここでしっかりと見つめ直すべきは「命」ではないでしょうか。「何があっても生き抜け!」ということではないでしょうか。毎年3万人(1日およそ100人)が自殺をしている我が国日本。この震災によって生きたくても生きられなかった人々の分まで、我々は生きていかなければならないと思います。

まさに今、人任せにするのではなく、自律し自分で考え、自ら行動する「生きる力」を我々大人が、子どもたちに見せる時だと思います。4月の最終週から野蒜地区では市役所の一部を間借りして、また女川町では約100人の生徒たちで、新学期が始まる予定とのことでした。

櫻田 幸一 (杉並区)

セイフティプラン24

都中Pが厚生事業として運用している会員向け団体保険。会員個人で加入。犯罪被害にも対応しており、東京都の「犯罪被害者等支援を進める会議」においても、他保険ではあまりない被害事故補償(交通事故含む)を打ち出した保険として高い評価を得ている。加入、問い合わせは都中Pまで。jpta@Tokyo-Jpta.org